表-7.1.1(2)　重要な植物種の移植方法の検討結果（その3）

種名	確認箇所		生活様式等	繁殖様式		生育環境	移植方法						現況及び移植地の環境状況		移植による撹乱などの影響
	障害灯の改変部	空港施設予定地		胞子又は花粉の移動様式	種子の散布様式		採取・繁殖方法	播種、移植等の実例の有無	使用機材	運搬方法	手法	実験	移植株数	移植地の環境状況及び配慮事項	
ヒジハリノキ（アカネ科）	●	●	木本類（低木～中木）	動物媒 風媒	重力散布 動物散布	低地林内なお、非改変部である鳶川南側のハマイヌビワ－コミノクロツグ群落内においても平成8年に生育が確認されている。	低木(1m以下)は掘取り(余分な枝や幹は切り落とす)	実例無し。	スコップ、クワ等による根掘り。人力作業。	根鉢を新聞紙、藁等で包み、人力あるいは機械で搬出。	植穴に植え込み水極め(根鉢と現地盤の隙間をなくす)後、乾燥防止にマルチング、根動きや倒木を防ぐため支柱設置。なお、挿し木及び種子採取による栽培・移植については株移植を補完する目的で、必要に応じて行うものとする。	実例がないため実験が必要	空港施設予定地であるゴルフ場内のオオバギ-ゲッキツ群落に78株。 航空障害灯予定地であるカタフタ山のオオバギ-ゲッキツ群落内に1株。	本種は低地林内に生育する高さ1～4mの常緑低木である。 空港施設予定地の株は、近隣の類似環境であるオオバギ-ゲッキツ群落に移植する。移植地と同一植生のオオバギ-ゲッキツ群落の植生調査結果は、低木層(3～5m)の植被率は20～90%、草本層(1～1.6m)の植被率は20～80%となっており、低木層と草本層の植被率が高くなっている所がある。移植地のオオバギ-ゲッキツ群落も同様であると考えられるが、本種は生長しても1～4m程度であること、また、植被率が低い所を選び、密植を避けることにより移植スペースは確保できると考える。移植地は現況で生育が確認された植生と同じであり、スペースも確保できることから、生育環境として適していると考える。 航空障害灯予定地については可能な限り改変を避けるものとするが、やむを得ない場合は直近に移植する。移植地はオオバギ-ゲッキツ群落である。移植地と同一植生であるオオバギ-ゲッキツ群落の植生調査結果は低木層(3～5m)の植被率は20～90%、草本層(1～1.6m)の植被率は20～80%となっている。移植地のオオバギ-ゲッキツ群落も同様であると考えられるが、移植株は少なく、生長しても1～4m程度であること、また、植被率が低い所を選ぶことにより移植スペースは確保できると考える。直近に移植することから、土壌条件などは現況とほぼ同一であり、生育環境として適していると考える。	空港施設予定地の株については、距離が近いことと繁殖様式から撹乱などの影響はないものと考える。 航空障害灯予定地については、やむを得ない場合は直近に移植する。直近に移植することから撹乱などの影響はないものと考える。
							中木(1～3m)は根回し後掘取り(余分な枝や幹は切り落とす)								
							挿し木	実例無し。	プランター等で育苗後に定植。						
							種子採種(夏～秋)	実例無し。	直播き、またはプランター等で育苗後に定植。						
イシガキカラスウリ（ウリ科）		●	藤本類 つる性	動物媒 風媒	重力散布 動物散布	林内、林縁	種子採種(春～秋)	実例無し。同属のカラスウリ、ケカラスウリなどで栽培実例あり。	直播き、またはプランター等で育苗後に定植。		植穴に植え込み水を与え、乾燥及び流亡を防ぐため枯葉等でマルチング 改変前に改変区域内の株から種子採取。	実例がないため実験が必要。カラスウリ等の実例を参考にする。	空港施設予定地であるゴルフ場内のオオバギ-ゲッキツ群落の林縁部に2株。	本種はやや開けた山地林道沿い等に生育する常緑のつる性多年草である。 空港施設予定地の株は、近隣のゴルフ場残地内のオオバギ-ゲッキツ群落林縁部へ移植する。 本種は林道沿い等の開けた環境を好み、つる性多年草で他物に巻き付いて生育することから、林縁での移植スペースの確保は容易であること、オオバギ-ゲッキツ群落は生育を確認した群落と同一であることから、生育環境として適していると考える。	改変区域内で採取した種子を生育した後、近隣のゴルフ場残地内のオオバギ-ゲッキツ群落林縁部へ移植する。移植地は2箇所ある。距離が近いことと繁殖様式から撹乱などの影響はないものと考える。
							掘取り	実例無し。同属のカラスウリ、ケカラスウリなどで栽培実例あり。	根掘り へら スコップ等	根茎を新聞紙等で包み、土嚢袋等で搬出。					
タイワンアシカキ（イネ科）		●	草本類・地上性・多年草	風媒	重力散布 動物散布	湿地	掘取り	実例無し。	スコップなどによる根掘り。人力作業。	周囲の土及び水と共に容器に入れて搬出	植穴に植え込み	実例がないため実験が必要	空港施設予定地であるゴルフ場内の池周辺等の湿地草本植生(休耕田湿地、低茎草本)や水田脇に多数生育。植生調査結果を踏まえ、生育状態の良い20株程度を、工事2年次、5年次にそれぞれ選定する。	本種は通常水中または水辺に生育する多年生草本である。 適切な移植地が事業実施区域周辺の公有地等には存在しないことから、空港施設北側のボックスカルバート下流にビオトープ(池)を創出し、そこへ移植を行う。類似環境を創出することから、生育には適していると考えるが、移植後は池の水位や水質なども含めた慎重な管理が必要である。	ビオトープ(池)内で管理することから撹乱などの影響はないものと考える。
							株分け(根茎の分割)	実例無し。同属のアシカキは実例有り。	掘取り後、はさみ、ナイフ等で株分けし、茎切片を植え込み、育苗後に定植。						
							種子採種(夏～秋)	実例無し。	プランター等で育苗後に定植。						